ISO 15189の認定を取得しました

検査部

こども病院検査部は、2021年１月にISO 15189の認定を取得しました(小児専門施設としては３番目)。

ISO 15189とは、臨床検査に特化した国際規格であり、臨床検査データの信頼性とそれを生み出す能力がある組織であるかどうかを第三者機関が評価し認定する制度です。この認定を取得したことにより、患者さんや医師から信頼される検査結果を報告できる臨床検査室と認められました。

ISO15189では、検査結果に影響を及ぼすあらゆるものを文書化し、記録をとり、保管管理することが要求されています。認定取得までの道のりは大変な労力と時間を要し、スタッフの努力は計り知れないものでありました。しかし、検査部スタッフ全員が共通の目標に向かって取り組んだことは、組織運営における大きなエネルギーとなったと思っています。ISO15189の目的は認定取得そのものではなく、ISOのツールを用いていかに業務改善を進めていくかにあります。今まで以上に品質の維持・向上に努め、患者さんのためにより良い検査データを提供できる臨床検査室として、継続的に改善を進めていきたいと思います。

Concept コンセプト

◉基本理念　周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

◉基本方針
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

感染拡大防止のため、繰り返し行われた行動規制によって、大人だけでなくこどもにも大変なストレスがかかっています。今後ワクチン接種が広く行き渡り、コロナ以前の生活に早く戻れることを期待しながら広報活動を推進して参ります。(T.K)

委員長：貝藤裕史
副委員長：大津雅秀　上西美奈子
委員：深江登志子　黒田隆二
林卓郎　粟田香奈子
井口秀子　寺田朝子
大原晴子　中村直子
琉隼人　時克志
石原奈央子　近藤由敬
山根龍也　東川果央

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで

兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL KOBE CHILDREN'S HOSPITAL
〒650-0047
神戸市中央区港島南町１丁目６-７
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp
03病P2-003A4

げんきカエル No.74

兵庫県立こども病院ニュースレター

令和３年(2021)　７月20日

新院長挨拶

院長　飯島　一誠

令和３年４月１日付で、中尾秀人先生の後任として院長に就任しました飯島一誠(いいじま かずもと)です。就任に際し一言ご挨拶を申し上げます。

兵庫県立こども病院は、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がん医療センター、小児心臓センターなどを中心に、こどもとご家族を支える“最後の砦”として、24時間体制の診療を行っています。急性期の高度な集学的治療を行うと同時に、長期にわたり疾患とともに生活していくこどもたちとご家族に対する支援と癒しの場としての機能も併せ持つように、集中治療機能の強化、救急医療体制の整備、在宅療養移行支援病棟や地域連携部門などの充実に努めています。

兵庫県のみならず全国の患者さんを視野に入れ、小児がん拠点病院として、隣接する神戸陽子線センターと連携し高度な小児がん医療を展開するとともに、兵庫県アレルギー疾患拠点病院として、難治性アレルギー疾患に対する最新の医療も提供しています。さらには、原因不明の疾患の原因を遺伝学的に解明する未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases, IRUD)の協力病院として、染色体や遺伝子に原因がある様々な病気を持つ患者さんの診療や遺伝相談などにも力を入れています。

最近の医学の進歩は目を見張るものがあり、これまで治らないと考えられていた小児の難病に対しても有効な治療法が次々と開発されています。我々は、小児・周産期医療のプロフェッショナルとして、そのような最新・最良の治療を提供するだけでなく、近接する神戸大学や神戸理研などの研究機関との連携をさらに深め、いまだに原因も分からず治療法もない難病に苦しむこどもたちやそのご家族に明るい希望を与えられるような研究を行い、情報発信していきたいと考えています。

当たり前の幸せ

楠本 京子(患者家族)

私の息子、陸人は３歳の時に難病と診断されました。現在は数値が正常値になり、元気に小学校に通いながら再発防止の為に通院治療をしていますが、病気がわかってから約３年半の間は手術と治療で入退院を繰り返していて、ほとんど家と病院の往復の生活でした。

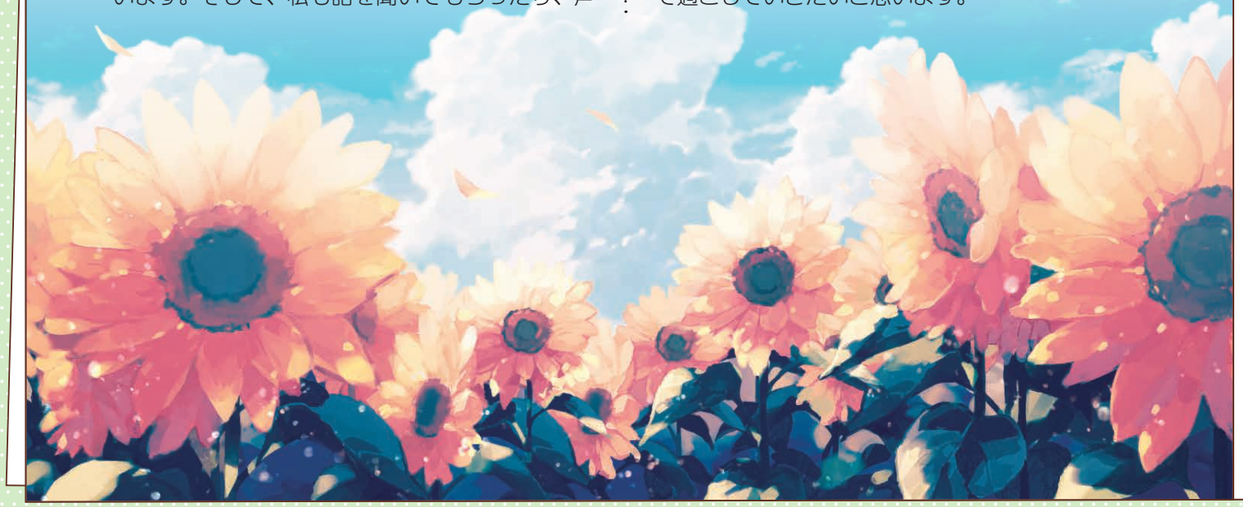
現在、陸人はＮＰＯ法人 Being ALIVE Japanの長期療養児入団プログラムに参加し、NTTドコモレッドハリケーンズというラグビーチームの一員として活動させてもらっています。月に数日ですが、チームの練習に参加したり試合の応援に行ったり、グッズの製作や販売など様々な活動を通して、チームの皆さんと一緒にたくさんの経験をさせてもらっています。辛くて大変だった闘病生活を乗り越えてのこの貴重な経験なので、尚更全てのことが新鮮なチャレンジで、こんな日がくればいいなと願っていたことが現実になり、親子で楽しみながら感謝して参加させてもらっています。

陸人が初めてこども病院に入院した時は極度の人見知りで、私がずっと傍にいないといけないような状態でした。でも主治医の先生方や看護師さん、保育士さんやスタッフの方々、お友達がとても親切に明るく接してくださったので、陸人もだんだん心を開いて入院生活をマイペースに楽しめるようになっていきました。保育園にはほぼ通えなかったけれど、病院で陸人の成長をずっと見守ってもらえたことはとても幸せだったと感じています。そして、私も話を聞いてもらったり、声を掛けていただいたり、今もですがたくさん支えてもらい本当に感謝しています。また、闘病生活を共に過ごしたお友達家族とも今も仲良くしていてとても大切な存在です。

陸人の闘病生活では色々なことがあったけれど、手術した後に長期治療をして、やっと治ったと思ったらまたすぐに再発するということを数回経験して私が感じたことは、未来が不安になるのは当たり前だけれど不安だけに囚われて閉じこもるのではなくて、毎日を大切にして過ごしていこうということ。やりたいことがあれば先延ばしにせずに今できることをちょっとでもやろう。我慢せずに泣こう。楽しもう。笑おう。それから、治療している子供が一番辛いことは当然だけれど、支える家族もやっぱりとても大変で、私もそうでしたが自分を責めてしまったり、自覚なく極度に無理してしまっていることがありました。

でも、親が元気で笑っていることが子供にとって嬉しくて安心できることだと思うので、今の私がもし闘病に付き添っている方と話す機会があったら「時間を作るのは難しいかもしれないけれど、病院のサポートを利用したり話を聞いてもらったりしながら、今より少しでも自分に優しく寄り添って、自分自身をもっと労って大切にしてあげて」と声を掛けると思います。

これからも当たり前の幸せの大切さを忘れずに、一日一日大切に、家族や友達といっぱい一緒に笑って過ごしていきたいと思います。



新任幹部職員のご案内

こどもの“笑顔”と“頑張る力”を引き出す『**笑児**(しょうに)**看護**』を目指しています。「共働・共育・共創」をスローガンに掲げ、チーム医療を強化し、専門性の高い看護実践をつないでいけるよう取り組んでいます。魅力ある職場を創り、共に成長していけるよう頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長　　松本　奈美

４月に尼崎総合医療センターからこども病院に着任いたしました。小児専門病院として放射線部門では安全で楽しんで画像検査や放射線治療をしていただけるような創意工夫をしています。また、画質の向上や被ばく線量管理などに取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

放射線技師長　　山﨑　弘幸

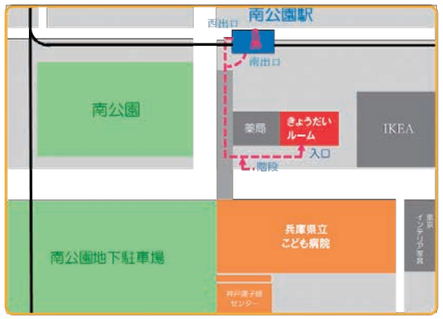
きょうだいルームについて

３月からきょうだいルームが開設されました。ご家族が安心して面会ができるように、入院しているお子さんのごきょうだいを預かるお部屋です。生後３か月～小学校３年生のお子さんが利用できます。

ご利用時間は13：30～ 15：00　15：15～16：45　どちらかの時間帯で平日のみになっています。無料でご利用いただけます。

広々としたルームにはベビーベッドや乳児用のおもちゃ、おままごと、ミニカー、ブロック等いろいろなおもちゃを置いています。また、折り紙やお絵描き、DVD鑑賞もでき、お子さんの好きな遊びをしながらご家族を待つことができます。保育士２名が担当していますので、とっても安心です。

「きょうだいがいるのでなかなか面会ができない…」と困っている方はぜひ利用してみてくださいね。

ホームページにも詳しい利用方法は掲載していますのでご覧ください。

保育士さんが
いっぱい遊んで
くれるよ！